

NEVER GIVE UP の精神で!!

～これがワタシの就職活動 Ver.2002～

今回お忙しいところ4年生の先輩方に就職活動における質問に答えて頂きました。

Q.1 就職に関する勉強はいつ頃から始めましたか？

A, 3年生の12月、2～3月、4年生の4月 ※サイト登録10月から。

Q.2 また、その勉強法は？

A, SPI問題集(苦手な問題中心に。テキストは薄めがGood!) 新聞を読む。

Q.3 リクナビ(就職サイト)をどう利用しましたか？

A, エントリー、説明会の申し込み、説明会の情報を得る。

Q.4 就職活動用のスーツは主に何色で、何着持っていますか？

A, 1～3着(黒・紺・チャコールグレー・グレー)

※シャツ→企業によって使い分けた(白・ピンクなど)。

バッグ→普段のバッグではなく、活動用の物を。

靴→2～3cmのヒールのパンプス。

Q.5 ナチュラルな化粧とはどの程度ですか？

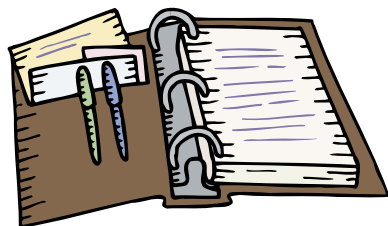
A, ベースはしっかり(肌の色を健康的に見せる程度のベースメイク)、アイメイクは控え目に。口紅はピンクの物を使った。

※ノーメイクはルール違反!

Q.6 髪の色はきちんとした黒に戻すべきですか？また、髪の長い人はどのようにするべきですか？

A, やっぱり黒!当然です。※茶髪でもいいが企業ウケは良くない。長い髪は結ぶか、まとめ髪でもOK。※ピアスは厳禁!

Q.7 ～面接について～



●面接に行く時は何を持って行けばいいのですか？

A, 筆記用具、自分が提出した書類(エントリーシート、履歴書)、ホームページをプリントアウトしたもの、面接ノート(自分の考えをまとめたもの)、企業説明のパンフレット、ストッキングの替えなど。



●面接の時に特に気を付けた点は何ですか？

A, 結論を先に述べる事。身なりはしっかりと姿勢よくする。笑顔で、ハキハキと明るく、大きめの声で発言する。話を聞くときは真剣に。

●一番困った事はどんなことですか？

A, 面接があると知らず準備していかなかった事。
圧迫面接。なぜその企業でないといけないのかを自分なりに研究し、それをわかりやすく述べるのに苦労した。

●何社くらい受けましたか？

A, エントリー7社や数十社、選考6~8社、17社という人もいました。※多い人は40~50社。普通は20社程度。

Q,8 最後に何かアドバイスをお願いします。

○1. どんなに失敗が続いても最後まで決して諦めてはいけません。

2. とにかく自分から動く事、それが大切です。「自分から」を恥ずかしいと思っ
てはいけません。「自分から」会社に電話したり、OGとアポをとったり、社員に会える
場所を求めて動いたり、いつも積極的であってください。

3. 「会社は自分をほしいと思っている」と思って面接に臨むとリラックスできるらし
いです。

○就職活動は早いうちから始めたほうがいいと思います。4月ぐらいで選考を終えてし
まう企業もあります。また、自己分析はしっかりと!!面接での自己アピールや志望
理由につながると思います。



○自己分析は早めにしっかりと行いましょう。そうする事で自分が理解でき、どん
な仕事に就きたいかわかってきます。履歴書は毎回必ず書き直し、その企業に“自
分と合ったところ”をアピールしましょう。3月に書いたものと6月に書いた履歴
書は全然ちがいます!!いつどこで、どんな企業と出会うかわかりません。日頃か
ら新聞・テレビのニュースを見たり、日常生活を改めていくことも大切です。

ご協力ありがとうございました。

介護体験

私は介護体験の一貫として利府の特別養護学校へ行った。私にとってこのような体験は初めてであり、もちろん不安で一杯だった。

当日、朝学校へ来る生徒達を玄関から迎えることから始まり、生徒達はみんな笑顔で登校し普段とは違う光景に戸惑いながらも、元気よく私たちにあいさつをしてくれた。私はその一声一声に、不安や緊張が柔らいだように思う。走って教室へ向かう生徒、実習生の顔をじっと見ながら歩いている生徒、いずれにしても私の目には学校へ来ることを拒む生徒はいないように映った。みんな自分の教室へと真っすぐ向かって行く。私はまずここから心を打たれた気がする。

私にとって一番この体験を通じて印象深いのは、「けんくん」という男の子だった。彼はまだ

6～7歳でトランポリンの大好きな子だ。けんくんがトランポリンをしていた時、私が一緒に遊ぼうと近づいたのだが、彼はそれに気付いて私を避けようとした。私はその時は人見知りな子なだけなのだろうと思っていたが、後から先生に彼は重度の自閉症だと聞かされた。彼は全く心を閉ざしたまま一日目が過ぎた。二日目、私は他の生徒と遊びながらも、けんくんとペアになる事が多かった。私は自分が怖れていてはいけないと思い、けんくんに反応がないことを覚悟しながらも彼に話し掛け続けた。それでも彼の反応は変わらないように思っていたが、けんくんとペアで散歩に行く時だった。昨日まで先生としか手をつないでくれなかったけんくんが、私が手をさしのべると彼は私の手を握ってくれたのだ。私はただ一言、嬉しかった。たかが手をつないでくれただけなのに、昨日とは違う彼の私に対する手ごたえを確かに感じ取ったからだ。その後も彼はほんの少しだが私の問いかけに返してくれたように思う。

たった二日間だけだったが私にとって密度の濃い充実した二日間だった。この体験で感じたことは話し掛ける側が怖れていては何も始まらないということだ。生徒達の壁を取り払うことよりも先に、私達の壁を取り払わなければならない事が大切ではないだろうかと思ふ。

元沢徳子

今年の夏休み、私は5日間の介護体験を終えた。緊張と発見の連続だったその5日間は、私にとって一生の宝物となるだろう。

教職課程において中学校教諭を目指している者や、その資格を取得したいと思っている者は、必ず計1週間の介護体験をしなければならない。私もそのため実習に臨んだ。初めはやはり何をしたいのかわからず、戸惑うことばかりで、自分で自分の不甲斐なさが情けないとすら感じた。しかし、5日間ただ職員の方々の指示を仰ぐばかりでは何の意味もないと思い、積極的に頑張ろうとその後は必死で仕事をした。

実習先の一日は仕事が多く、覚えるだけで精一杯であったが、一つ一つ確実にこなしていこうと頑張った。その間でも利用者さん達との会話や世話、ちょっとした変化に気付くことや気遣いをしなければならない。そのような中、利用者さん達が、私達実習生と孫のように接して

～ふれあいの日々～

下さっているのが分かり、涙が出る程嬉しかった。

全く仕事に慣れていない時でさえ、利用者さんから声をかけていただき、頑張れの一言にいくら励まされたか分からない。

実習を終えた後、職員の方々から一言ずつ感想をいただいた。その中で一番印象に残った言葉は、“どんな立場、どんな状態の人でも一人に人間”という言葉であった。私はこの一言で目が覚める思いがした。高齢社会の現代、誰が老人の方々を守るのかといたら、私達なのだ。私達が一番に考えなければならない問題なのだと思う。これから実習をされる皆さんは、不安な気持ちや、もしかするとためらいの気持ちがあるかもしれない。しかし、そのような胸中であっても、自分の出来る精一杯は実行すべきである。自分なりの100%を出せば、自分はもちろん、周りの人達に伝わるものだ。気負わず頑張るって欲しい。

寺島 瞳

私達の一ヶ月

海外研修（カナダ）

アメリカに代わって、今年からはカナダのビクトリアという所に一か月滞在しました。何もかもが初めてで期待と不安で満ちあふれていました。ここでは来年の海外研修の参考になればと思い、今年の体験をいくつかの点から紹介したいと思います。

ホストファミリー

カナダでは、2人1組（今年は、各自でペアをつくりました。）となり、1家族のホストファミリーの家に2人でホームステイをする形になっています。ホストファミリーによって違いはあると思いますが、彼らは、私達生徒達に各自の部屋、そして、学校で食べる昼食などを用意してくれます。また、学校終了後、休日にはホストファミリーと自由に過ごすことのできる時間があり、そこでは特に、ホストファミリーと共にキャンプや小旅行などカナダで貴重な体験ができます。

食事

カナダでの食事は、食事を用意してくれるホストファミリーによって違いがでてきますが、主食としては、パンやいも類がでてきます。朝食は、日本に合わせ、白い御飯を毎日炊いてくれた所もありますが、ほとんどトーストかコーンフレークという食事が多かったようです。昼食には、各自がホストファミリーが用意してくれたサンドウィッチ、カップラーメンなどが多く、食べる場所としては、基本的にとこで食べてもいいのですが、ほぼ全員が各自のクラスで昼食をとっていました。そして、夕食は、バーベキューや肉料理など、朝、昼よりも比重の高いものを食べていました。また、ホストファミリーの中に他国出身の方がいると、その国の料理も

食べることができるかもしれません。

学校

私達に通っていた語学学校は雰囲気良く先生方も親しみやすくとても学びやすい学校でした。Placement Test によって自分のレベルに合ったクラスで勉強するので無理なく学べます。この学校の特に良いところは、少人数制クラスだということだと思います。各クラスの人数が約7、8人なの



Native Cultural Centre in Duncan

で積極的に参加できます。授業内容は各クラスによって異なりますが、私のクラスでは主に発音の練習、会話、その他文法やカナダについてなど幅広く学びました。前述の通り少人数なので積極的に発言したりと、毎日がとても楽しく充実した日々でした。

アクティビティ

基本的に午前は授業、午後はアクティビティでした。ここでは学外で様々な活動をしました。これらを通して、カナダの自然や文化、歴史などあらゆる角度から見たり体験できました。



感想

●今回の海外研修はたくさんの人々と出会い、多くの事を学び経験しました。私にとってとても意義のある1ヶ月でした。初めての海外でホームステイという事もあり、言葉の壁や文化の違いなど何をやるにも戸惑い、失敗した事もありました。私が最も不安に

思っていたのはホストファミリーとうまく接する事ができるのかという事でした。しかし、意思表示しなければ何も始まらず、自分のためにもなりません。間違いを恐れず積極的に話そうとする事が大切だと思いました。たった1ヶ月間でしたがこれらの経験は今後の私にとってもプラスになる貴重なものになるでしょう。

●私は、今回の海外研修が初めての海外でした。そのため、カナダでの最初の1週間間は、慣れない環境や全てが英語であったため、うまく他の人に気持ちが伝えられず、辛い日々がありました。しかし、次第にカナダでの生活にも慣れ、周りの人たちの優しさに支えられるようになると気持ちが前向きになり、毎日が楽しくてしかたなくなりました。カナダにかかわらず海外研修では、他国で生活することで改めて日本の文化を見直すよい機会でもあり、多くの人と出会い、多くのことを吸収できるよい機会であると思います。日本では、体験する事ができない貴重な体験ができると思うので、ぜひ参加してみてください。

とある人のとある一日

7:00	起床
7:30	朝食
8:10	学校へ出発
9:00	授業開始
12:00	昼食
13:00	アクティビティ (ホエールウォッチング)
16:00	解散 (各自帰宅)
18:00	夕食
19:00	ホストファミリーと映画鑑賞 (各自自由時間)
23:00	就寝
	★★★その他のアクティビティ★★★ プール、アフタヌーンティー、チョコレートファクトリー、ドリームキャッチャー作り、演劇鑑賞 (Merchant of Venice、Hello Dolly) etc...

私達の一ヶ月

海外研修（イギリス）

7月13日から8月9日までの約1ヶ月間、イギリスで海外研修がありました。13日に成田空港を発ち、海外研修が始まりました。皆、期待と不安でいっぱいでした。研修の内容は、初めの3週間はスコットランドでエディンバラ大学・語学学校とに分かれて語学研修をし、最後の1週間は、ロンドンで観光をするといったものでした。

★ホストファミリー★ 2人ずつそれぞれのホストファミリーと共に生活をしました。家庭環境は様々で、子供のいる家、ペットのいる家などでした。私のホストファミリーは老夫婦2人暮らしで、ロシア人の女の子と共にホームステイをしました。とても明るい人達で、文化の話などをし、たくさんの会話ができました。

★学校、放課後の活動★ 学校は毎日充実していました。私は語学学校へ行きましたが、クラスは少人数で、様々な国・年齢の人達がいきました。皆個性的で楽しい人達で、毎日楽しい雰囲気での授業でした。先生も、毎回ゲームなどを取り入れ、分かりやすく楽しい授業をしてくれました。放課後にも様々な活動がありました。スコットランドの文化などを学んだりしました。中でも、スコットランドのダンスが楽しかったです。ネイピア大学という所で、絵や音楽について学ぶプログラムもありました。スコットランドでの最後の夜にはミリタリータトゥーを見ることができ、とても感動しました。

★ロンドンでの生活★ ロンドンでは学校の寮のようなところに泊まりました。主に観光中心で、国会議事堂やロンドン・アイなど、各名所をガイドさんの解説付きでまわりました。自由行動では、各自ショッピングなどを楽しみ、最後の夜には、皆で『ライオン・キング』や『マイフェアレディ』などの演劇を鑑賞しました。私のロンドンでの一番の思い出は、体を張ってのぼったセント・ポール寺院からロンドンを一望したことです。おすすめスポットです。



バッキンガム宮殿の前で

この研修を通して、多くの経験をし、たくさんの人と出会うことができました。日本とは違う時の流れの中で、それぞれたくさんの思い出をつくれたことでしょうか。とても貴重な経験でした。

イギリスでのある日の生活

【エディンバラで】

7時半	9時	13時	18時	23時～24時
起床	授業開始	昼食	夕食	帰宅・宿題・就寝

【ロンドンで】

8時	11時	12時	15時	19時
セント・ポール大聖堂へ行く	大英博物館に行く	ボンドストリートで買い物	昼食	”ライオンキング”を鑑賞

Thanks a lot 副手さん

英文学科の皆様へ 先輩から

学生の皆様が誕生していない頃からこの宮城学院女子大学英文学科に学び、卒業後勤務して34年になります。そしてまだまだだと思っていた定年を迎えることになりました。以前は基礎英会話は必修科目で英文学科の1、2年生はLL教室で授業を受けましたので、私も出席をとったり、教材や学習課題を示したりして皆様と接する機会が多くあり、楽しく話し合ったことも懐かしく思い出されます。その頃も今やはり英語は世界で一番通用している言語ではないでしょうか。外国語を学ぶことはその国の文化への興味以外にも忍耐、熱意、努力、時間が必要だと思います。なのにちょっと怠るとすぐ忘れ、離れていってしまいます。皆様もどうか厭きることなく学習を続けて文学、語学の研究に励んで下さいませ。

学生時代に学んだ英語を生涯の仕事に出来た事や最高の職場環境に居られた事は、本当に幸いなことと心から感謝しております。

鈴木紀子

思い出

「祥子ちゃんって一生学生をしてそうだよね。」

短大の卒業式の日、友人達から言われた言葉です。その年、“学生”を卒業しなかったのは私だけでした。友人達の期待に答えて、私は宮城学院女子大学に編入、そして大学院にまで進みました。今思うと、私は“学生”が好きだったのかもしれませんが。そのような私にとって終着駅となったのが宮城学院です。さらに、この春から臨時ではありますが副手として勤務させて頂くことになりました。よって宮城学院は始発駅にもなったわけです。

学生の頃、私が副手室の扉を開けたのはほんの数回。当然ですが、今では毎日開けています。副手室は勉強の場であり、出会いの場でもあります。毎日学ぶことが多く、様々な学生と出会うことができます。また、阿部さんや鈴木さんや先生方のお話も非常に楽しく、勉強になります。ここまで恵まれた場所にいることができることを日々感謝しております。

視点が変わらないと気づかないことは多いと思います。私が学生だった時には、自分がどれほど恵まれた環境にいたか気づくことができませんでした。ぜひ自分の周りをよく見てみてください。見えなかった何かが見えてくるでしょう。’What a little thing To remember for years — To remember with tears!’という詩の一節があります。ほんの些細なことでも忘れられない思い出になるかもしれないのです。色々なことに挑戦し、充実した四年間をお過ごしください。

矢元祥子

分かれ道

3年生になると英文学科は文学・語学・文化の3つのコースに分かれます。それぞれどのような特徴があるのか各コースの先生方にお話を伺いました。

英米文学コース 英文科で学んでいる皆さんは、英語を流暢に話せるようになることを夢見てこの学科に入学したことと思います。

英語によらず、「話す」ということは内容を伴います。

英語という言語を媒体としてアメリカやイギリスの人々がどんな考えを持っているのか、どんな歴史があり現在にいたっているのか、現代の人々はどんな生活をしているのか等を知ることによってその民族や社会への理解を深める事ができます。

それを最も効果的に習得できる方法はいうまでもなく自らの身をその環境に置くこと、つまり留学によってでしょう。しかし、現実には全ての人に留学が許されるわけではありません。

しかし、実際にその国に行くことなくその国の歴史や文化を理解する方法は他にもあります。それが文学の果たす重要な役目の一つなのです。英語で書かれた小説・詩・演劇等を原語で読むことによって知りうることは想像を超えるものがあります。

現代社会は日進月歩、目まぐるしく変化し生活全般のテンポが非常に早くなっています。インターネットでボタンを押せば、たちどころに様々な情報が画面一杯に次々と現れます。しかも画面に溢れる情報は、瞬時に現れ瞬時に消え去ります。

文学作品を読むという作業は、ある程度の時間を必要とします。作品の中に描かれている人物やプロット、登場人物が経験すること等全ての出来事の一つ一つ理解するには時間がかかり、その間意識を集中させていなければなりません。一つの作品を読み味わうには、コンピューターを扱う時のように瞬時に解答が得られるものではありませんが、作品を原文で完読した時の充実感と達成感は何ものにも変えがたいものです。さらに、そこに描かれた人生を主人公と共に経験することによって得る感動と喜びもまた格別であることをすでに経験済みの方もいらっしゃるでしょう。経験そのものは想像されたものですが、そこで体験する感情は real なもので、時代や場所をこえた普遍的なものです。皆さんが一つでも多くの素晴らしい作品にめぐりあい人生観を豊かにし、感性を磨くことができることを願っています。 飯塚ひさえ

英語学コース 英文学科の学生の大部分は英語のコミュニケーション能力を伸ばしたいと考えていると思います。このコミュニケーションを成り立たせている仕組みを、本コースでは扱います。この意味で、英語を基礎から学びたい人、英語に対する疑問を解決したいと思っている人、ことばについて考えるのが好きな人、英語のスペシャリストを目指す人に適しています。さらに英語学は日常生活と密接に関係しています。例えば TOY"R"US ではなぜ R が逆になっているか、数年前の全日空の宣伝「ハンバーガー

計画」の意味などは英語学の知識の応用です。米国では言語学を学んだ人が、広告会社で働いています。講義では、日本語と英語の比較、英語の音、構造、意味、歴史、言語の獲得、言語と文化、英語の使い方などを学びます。もちろん、今話題の小学生の英語獲得も対象となります。今年度は、英文法の背後に潜む謎に迫っています。英文法というと悪いイメージを持っている学生が多いのですが、心配ありません。英語学で扱う文法は、高校までの文法とは全く異なります。実は、中高校英語、大学受験では味家のない暗記ものの英文法が現在、人間とはなにかを探る研究の最前線で重要な働きをしています。英語学基礎セミナーは、学生の積極的な質問が多いのが特徴です。最初は質問できなかった学生も、後期になると誰もが質問できるようになります。これは将来どの職業についても、有益な技術です。講義以外でも、大学院生が勉強会を主催しています。図書館で、議論している学生がいたら英語学コースの学生にほぼ間違いありません。ただし勉強だけでなく、学生が計画した基礎セミのコンパもあり、教員、上級生との交流も盛んです。今後英語学コースの学生に、勉強が楽しいか聞いて下さい。

遊佐典昭

英米文化コース 英文学科では、4年間を通して英語運用能力を高めていくことがまず基本にあります。文化コースでは、その英語が使われているアメリカ、イギリス、オーストラリアの文化をテーマにします。語学力とともにこうした異文化を理解することは、コミュニケーションを円滑にしていく上でも、国際的な場で活躍していく上でも大切なことです。今、文化交流の場もかなり増え、そうした場でコーディネーターとしての仕事ができる人も求められてきています。つまり、異文化に対する知識や理解のある人、国際的な場で主として使われている英語を運用できる人です。卒業生は、教員、会社事務、営業などいろいろですが、これからさらに社会も多様化していくでしょうから、従来からの職業に自分をあてはめていくだけではなく、社会の動きを読んで、自分がしたいことあるいはやれそうなことから、新たな仕事をつくり出すこともできるのではないのでしょうか。

さて文化コースでは、アメリカ、イギリス、オーストラリア出身のヒューストン先生、ギルモア先生、クラーク先生によるそれぞれの国の文化をテーマとしたセミナーのほか、特に経済や社会問題等に焦点をあてた非常勤講師の先生によるセミナーなど様々な内容のものがああります。ちなみに私（吉村）が担当する今年のセミナー（英米文化セミナー・イギリス）では、学生各自が設定したテーマをもとに、発表や議論を通してイギリスの文化を考察しています。学生の関心は王室、紅茶、パンク、教育など様々ですが、クラス全体で色々な角度からイギリスをみることができ、また、いくつかの領域にまたがることで、複雑な文化構造も少しずつみえてきています。文化とはいろいろな過程をへて形成されるものです。ですから曖昧模糊としたところもありますが、それをいろいろな資料を使って読み解いていくところに文化研究のおもしろさや醍醐味があります。

文化をテーマにするということは、単に、ある地域の習慣や風習、社会や経済の動き、生活様式などを学ぶことだけではなく、どうしてそのような文化が成立してきたかを探求していくことでもあります。そうすることにより、その地域の人々や時代の精神もわかってきますし、より深い文化理解につながっていきます。四年間で高めていく英語力も、こうした文化に対する理解や知識により、コミュニケーションの場で真に生きていくことでしょう。また、こうした分析能力を高めていくことにより、これからますます複雑になっていく日本や世界の文化現象を読み解く力も身につけていくことでしょう。目まぐるしく変わる社会の変化も客観的にみられるような“私”に出会えるかもしれませんね。同時に、これからの社会の中で自分なりの表現ができる“私”も模索して行ってほしいと思います。

吉村典子

オススメ映画

後期の授業にも慣れてきた今日この頃、みなさんいかがお過ごしですか？時間に余裕が出てきたのなら、映画鑑賞なんていかがでしょう？クリス先生から英語の勉強になる映画をえらんでいただきました。その三本を紹介させていただきます。

★ Cast Away ★

無人島に漂流した男の話。

point: 一人で喋っていることが多いので、言葉をひろいやすい。



★ Pay It Forward ★

社会科の授業でだされた課題。

男の子がだした一つの答えが世界を変える！？

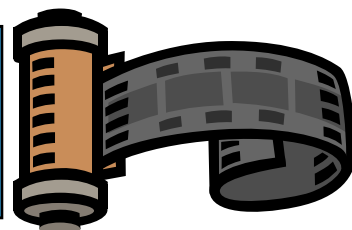
point: 主演が子どもなので比較的英語が簡単で聞き取りやすい。

★ Toy Story ★

もし自分のおもちゃが生きていたら…。

かわいいおもちゃたちの冒険のお話。

point: 子ども向けなので理解しやすい。



映画を楽しんでいると同時に、リスニングの勉強になっているなんて、いい勉強法ですよ。映画で勉強をする際には、参考にしてみてください。

編集後記

冬の寒さが身にしみるようになった今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか？ Newsletter は20号という大舞台に乗り上げ、前回から英文学科のホームページにも掲載されるようになりました。今回は就職活動や海外研修など盛り沢山な内容でお送りしました。これらの内容はきっとご満足いただけるものと思います。また、お忙しい中原稿を寄せていただいた皆様に心から御礼申し上げます。

編集 委員

1年A組 猪又 望

石田 伸恵

1年B組 坂口 佳奈

門馬 佳奈美

2年A組 酒井 まゆこ

庄子 香和

2年B組 沼倉 由季

大平 宏美

3年A組 三浦 桂子

元沢 徳子

3年B組 高城 志麻

寺島 瞳

4年A組 齊藤 真美

佐々木 理衣

4年B組 吉本 夏子

古川 亜希子